

各施策における指標の評価

第4章 施策の展開方向		指標数	A 100%	B 80%～99%	C 70%～79%	D 70%未満	評価不可
第1節	東日本大震災・原子力災害からの復興の加速化	1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
第2節	多様な担い手の確保・育成	2	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
第3節	生産基盤の確保・整備と試験研究の推進	2	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
第4節	需要を創出する流通・販売戦略の実践	0	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
第5節	戦略的な生産活動の展開	4	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%
第6節	活力と魅力ある農山漁村の創生	3	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計		12	5 41.7%	3 25.0%	1 8.3%	3 25.0%	0 0.0%

※ 増加を目指す指標→実績値／目標値×100（％） 減少を目指す指標→目標値／実績値×100（％）

<評価・分析>

- 全指標のうち42％がA評価、25％がB評価となっている。
- 森林整備面積は、東日本大震災前の半分程度になっており、近年は漸減傾向で推移している。今後、国の補助事業や県森林環境基金を活用しながら、主伐後の再造林を推進するなど、森林整備面積の確保に努める。
- 新規林業就業者数は「林業アカデミーふくしま」の取組等により、令和3年度から4年連続で100人以上となっている。一方で、林業従事者の年齢構成では40歳未満の就業者割合が増加している現状もあることから、充実した森林資源のより一層の活用や森林経営管理制度による森林の適正な管理を行うため、引き続き次代を担う新規就業者の確保、育成とともに就業後の継続的な支援に努める。
- 林業専用道や森林作業道の整備、治山事業による治山施設の設置が着実に進んでいる。引き続き、計画的な整備等に努める。
- 林業産出額は、新設住宅着工戸数の減少や製材用素材の価格低下等により、木材生産部門は減少したものの、栽培きのこ類の生産量増加等により、全体として、ほぼ横ばい傾向で推移している。引き続き、きのこ生産再開や生産規模拡大を目指す事業者の支援等に取り組む。
- 森林経営計画認定率については、経営計画の認定条件等により計画の継続を断念する場合や、境界や所有者が不明である森林が多く、新たな計画作成の支障となっていることから減少傾向にある。国の補助事業を活用しながら境界明確化や所有者探索等の取組を推進するとともに、計画作成の研修会開催等により、認定率の増加を目指す。